

外国人技能実習生の実務研修始動

中国から派遣された外国人技能実習生の王琪さん^{オウキ} (21) と雷艶さん^{ライエン} (33)、胡文清さん^{コフンセイ} (21) の3人が約1カ月間の達生堂グループ独自に行う介護基礎研修を修了しました。3月1日に IIFF の多田正毅理事長から3人に修了証が手渡され、王さんは特別養護老人ホーム「ヒューマン・ハウス」、雷さんと胡さんは介護老人保健施設「すばる」で本格的な実習が始まります。

外国人技能実習制度の介護職については、2017年11月の技能実習法改正で新しく追加されました。IIFFでは、外国人技能実習生を受け入れ、事業所などに派遣する監理団体の許可を2018年3月に受け、中国の送り出し機関と契約。第一陣となる3人は1月6日に来日。小山市内の学校で入国後講習を受け、2月6日から社会福祉法人「達生堂」で技能実習を行っています。介護基礎研修は、達生堂グループが行っている介護の初任者研修の中の実技に絞り、bベッドへの移乗や体位変換、入浴、おむつ交換などの実技を確実なものとするために実施。3人は午前中は施設での技能実習を行い、午後から介護基礎研修を受けていました。この制度自体がスタートしたばかりということもあり、研修が行われている間に新聞社やケーブルテレビが取材に訪れました。

王さんは日本語検定のN1、雷さん、胡さんはN3を取得しており、現状では約3年間、日本で技能研修を行います。今後、IIFFでは中国からの技能研修生を順次受け入れ、グループ以外の病院や福祉施設などに派遣していく予定です。また、送り出し機関もタイの送り出し機関との交渉を進めており、ベトナムとも検討を進めています。

2019年3月1日

